

鶴亭秀賀作
梅蝶樓國貞画

上の巻

~ 13
3689
10



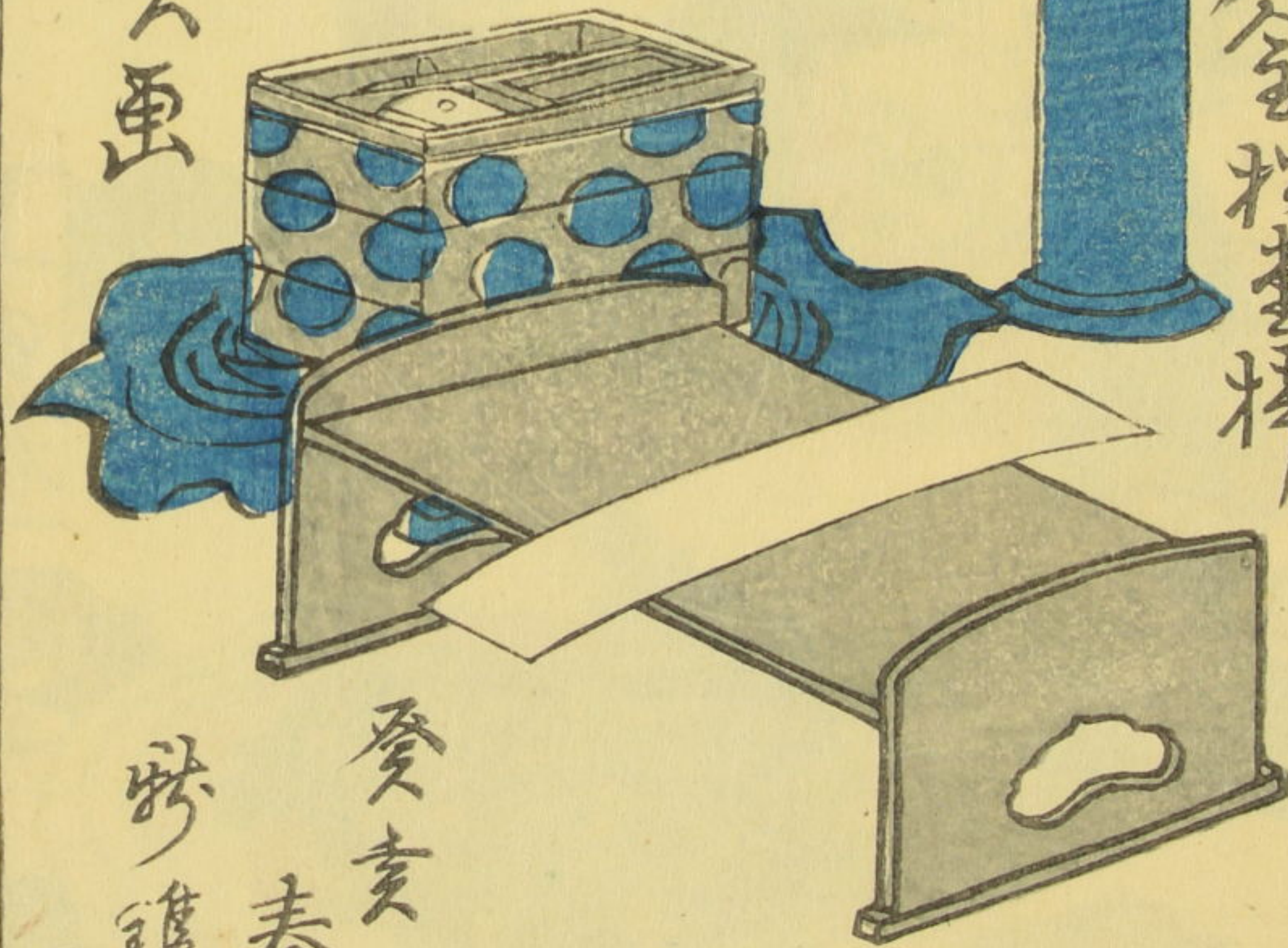
門へ13
 號 3689
 卷 10

金華

七変化十篇上

秀賀代

國久画

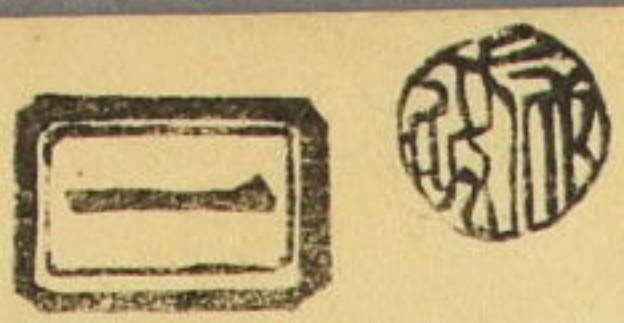


金華畫棒

癸亥

春

妙鏡



或人の曰此書三編下の巻ふ出〜難波河四郎の舎弟漂之魚〜
 玉猫の守夜初瀬の緯其後如何做〜や更よ篇と重ぬれ〜
 不審と問〜兼知顔〜對〜言〜成程夜半の燈火の如〜立消做
 出〜入〜物〜故〜入用の節〜其始末を説〜引
 貴言と赤四郎〜託〜緯〜誌〜や實〜余り多時影も導〜爲
 されば倘や作者の志却〜看官の思〜事〜察〜也其外等〜如
 猪路もあ〜れ余計御世話無用と燈〜と視〜や濟〜趣向の系の口多
 きを恠〜と善〜と腕〜と組系眼と丸打の思〜ホ〜紅辛苦〜意細打覺
 策あ〜も猶〜と長〜と譚〜と総角の結〜目迄不相替御評判の程偏願未

文久三亥春發兌

秀賀記





心から花の香も
小森半之丞
をいかに
不計り御之助
大災を引出せ



石堂
坂名馬九郎

可成の銀次
赤四郎



○天守
義弘

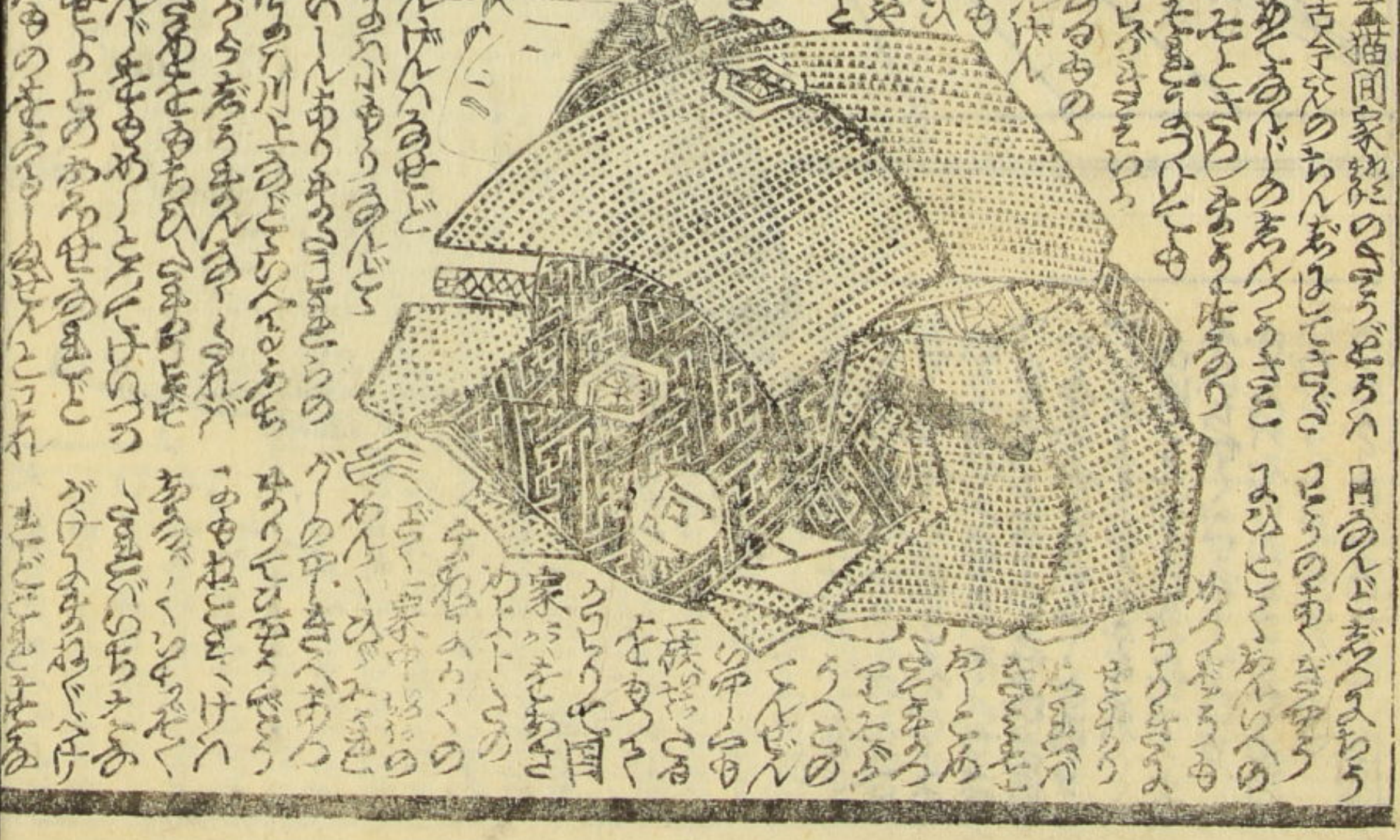
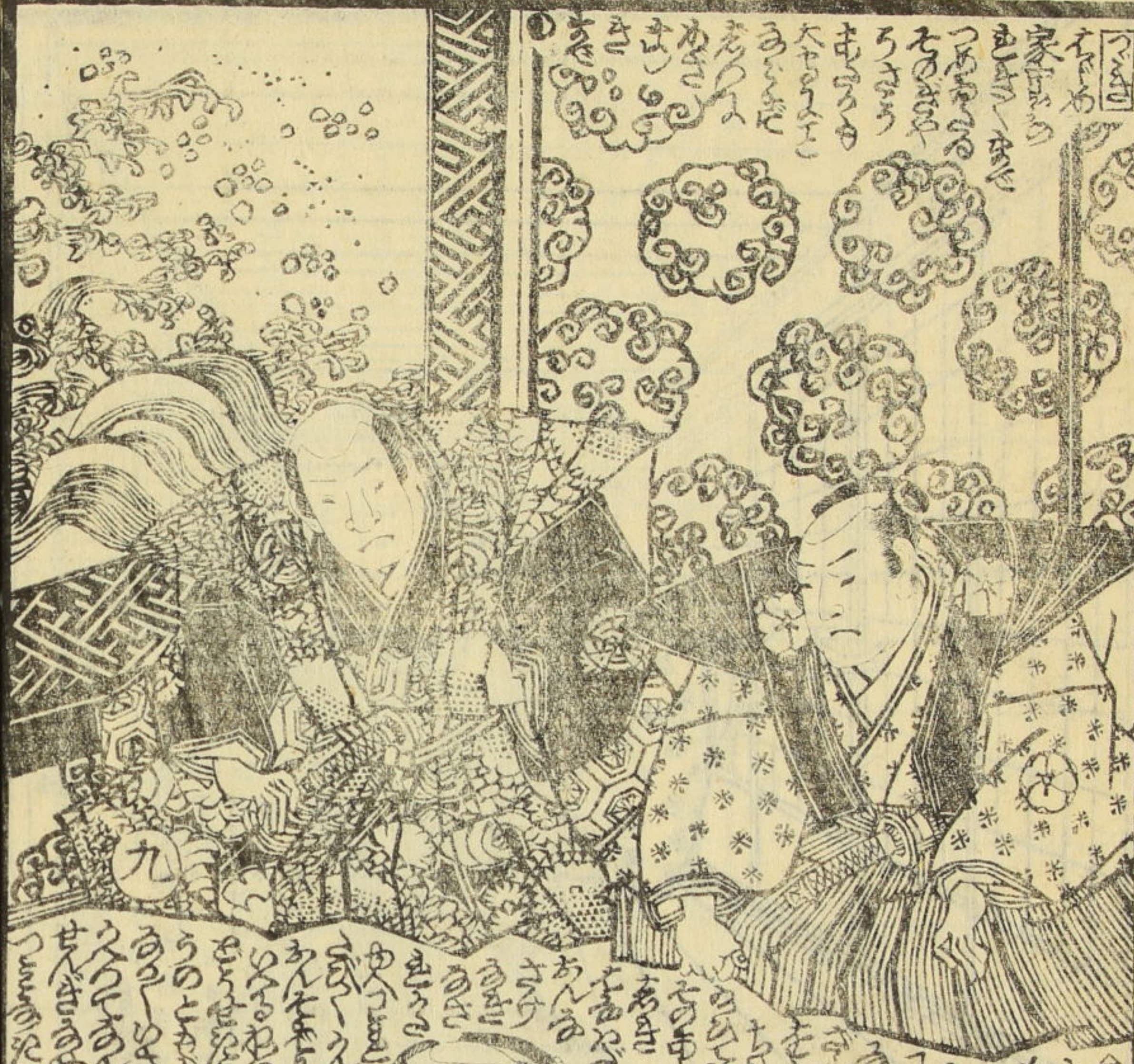
○於玉
乃春野

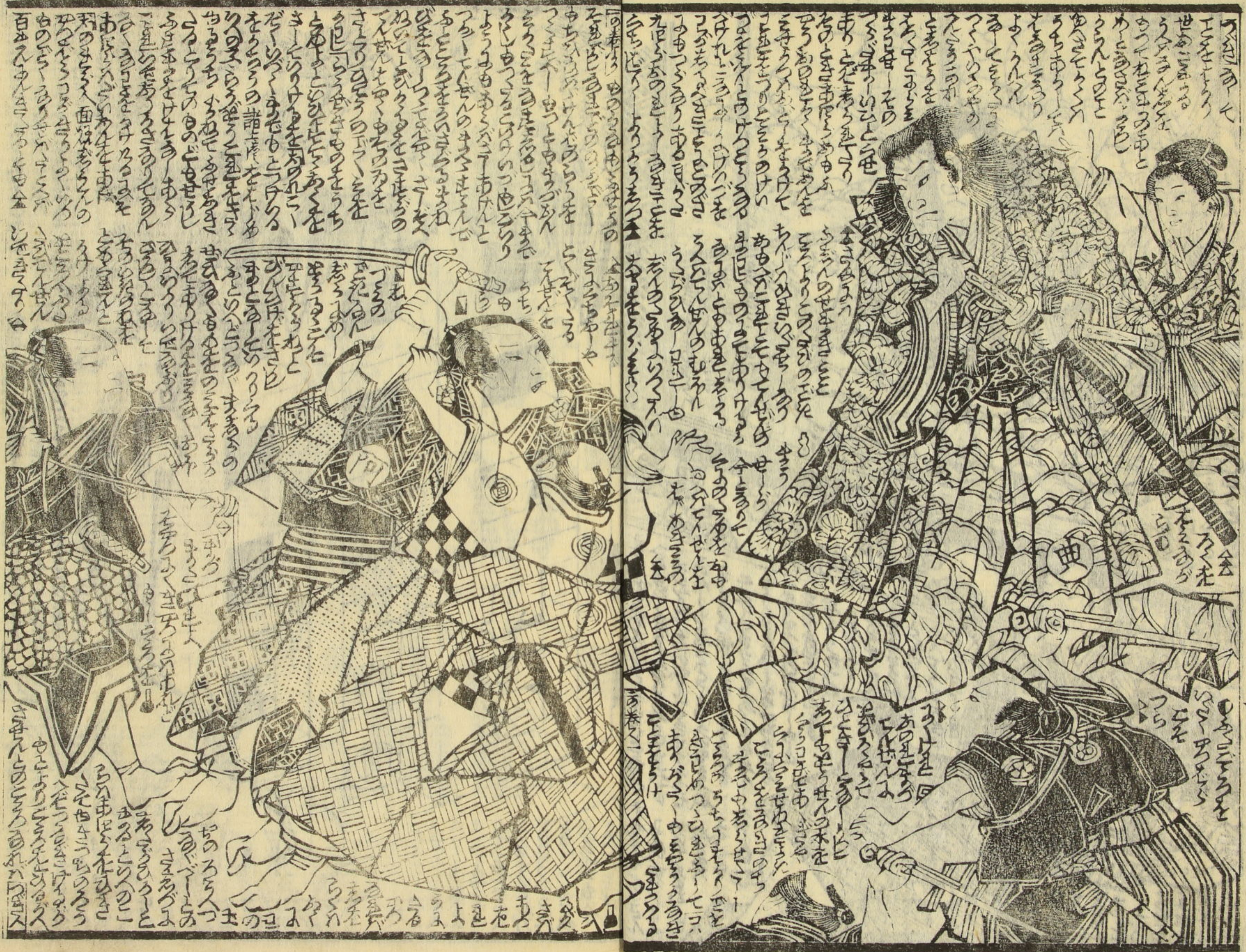
自然
るる
一

此の猫
解の篇
重
ね
る
る

御休息
於玉
の方

七
五
作
下



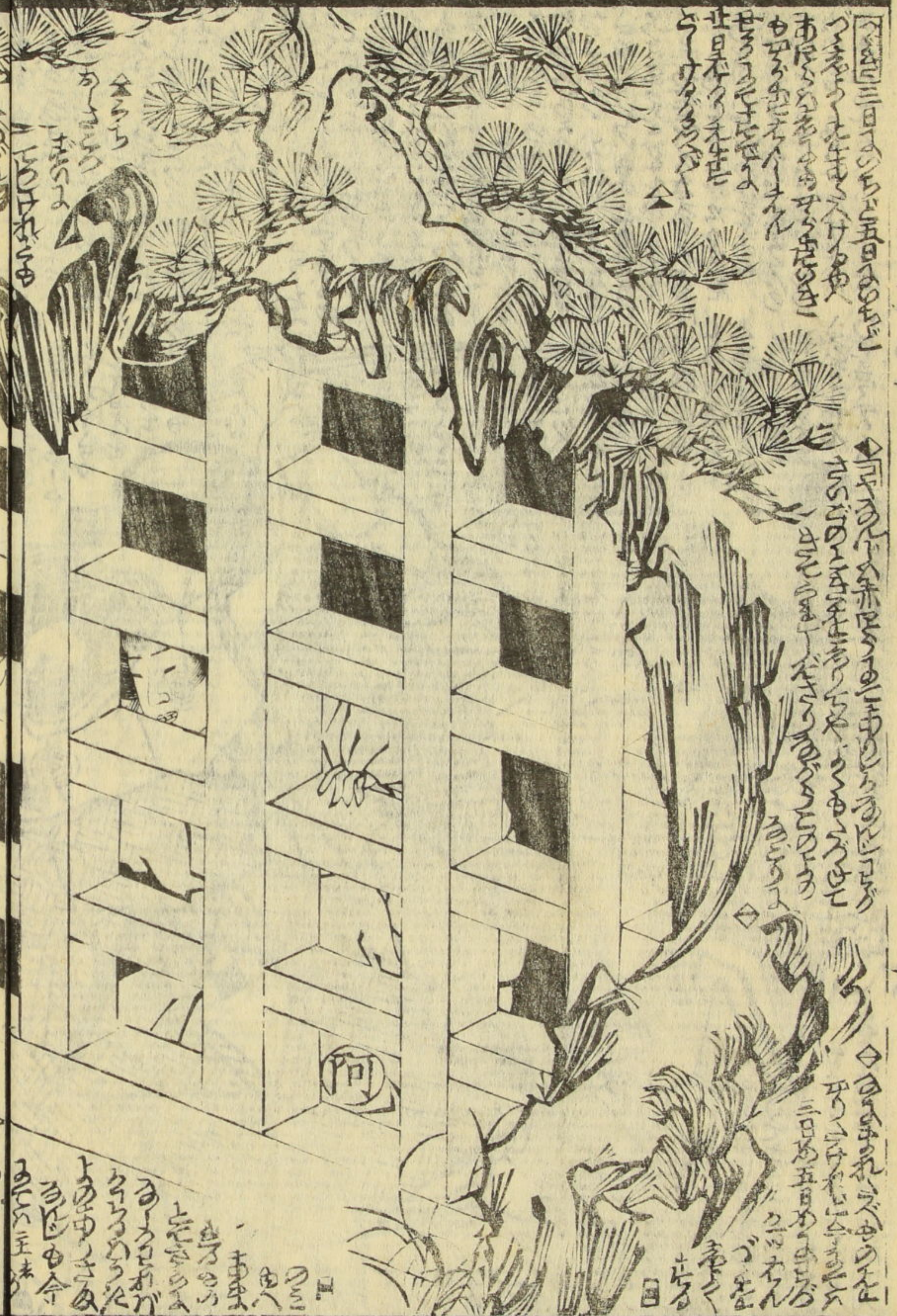


Vertical columns of Japanese text, likely a narrative or dialogue, surrounding the illustration. The text is written in a traditional style, with some characters in red ink (kuzushiji).

三日入のち五日のち
つらうしをまへりける
あはれなるものなる
おのれなるものなる
おのれなるものなる
おのれなるものなる

あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる

あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる



あはれなるものなる

赤四郎



あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる

あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる

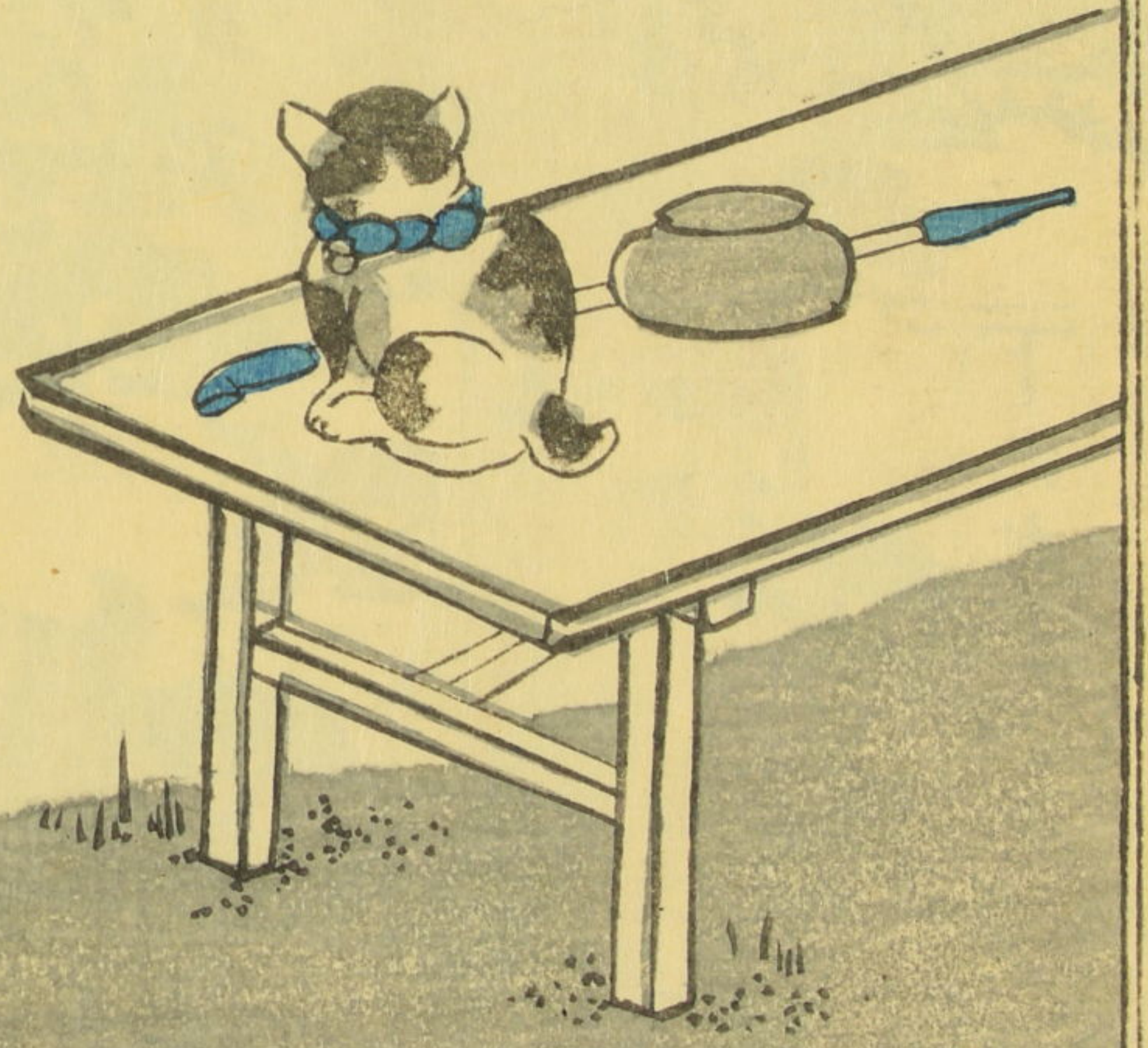
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる

あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる
あはれなるものなる

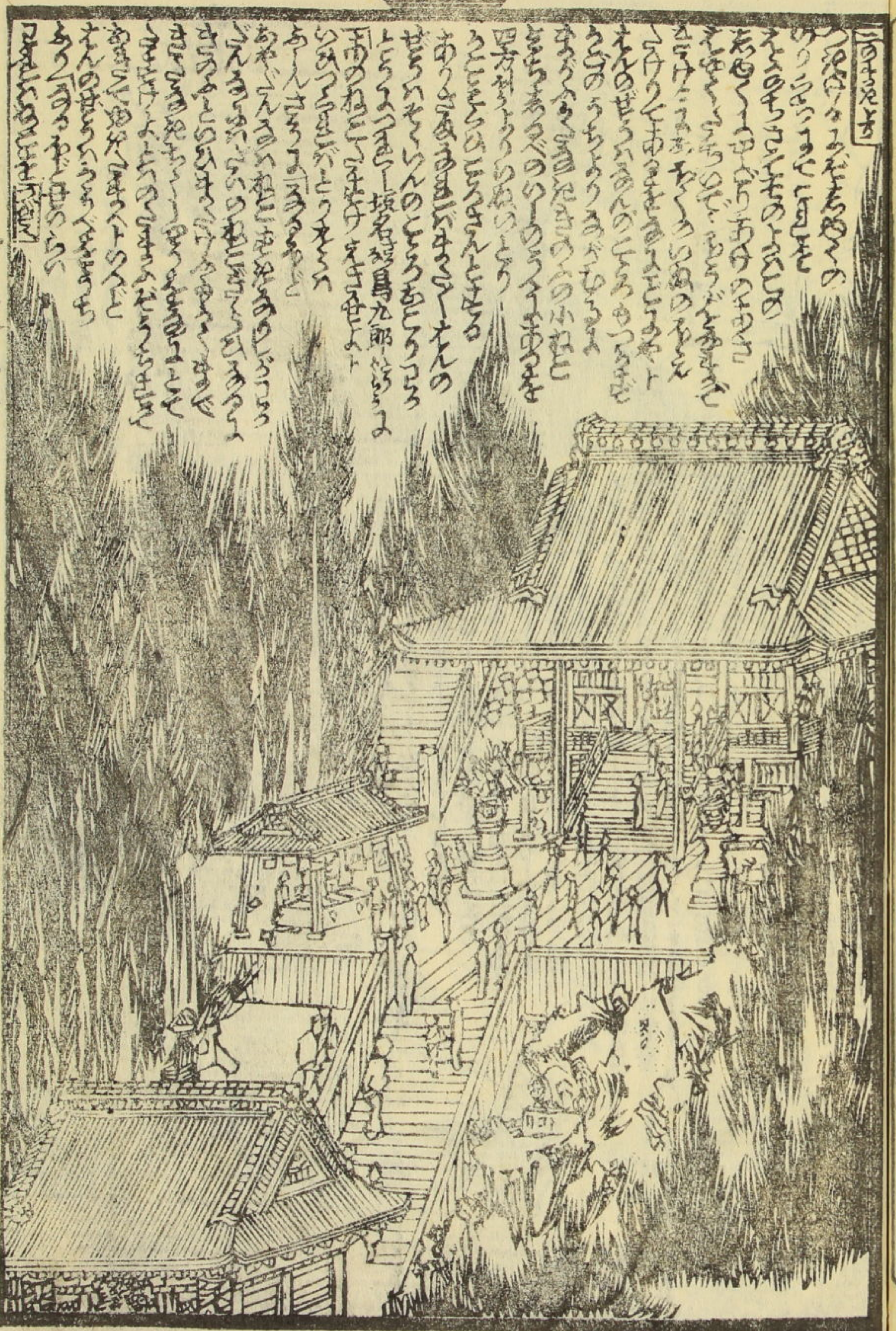


清休處

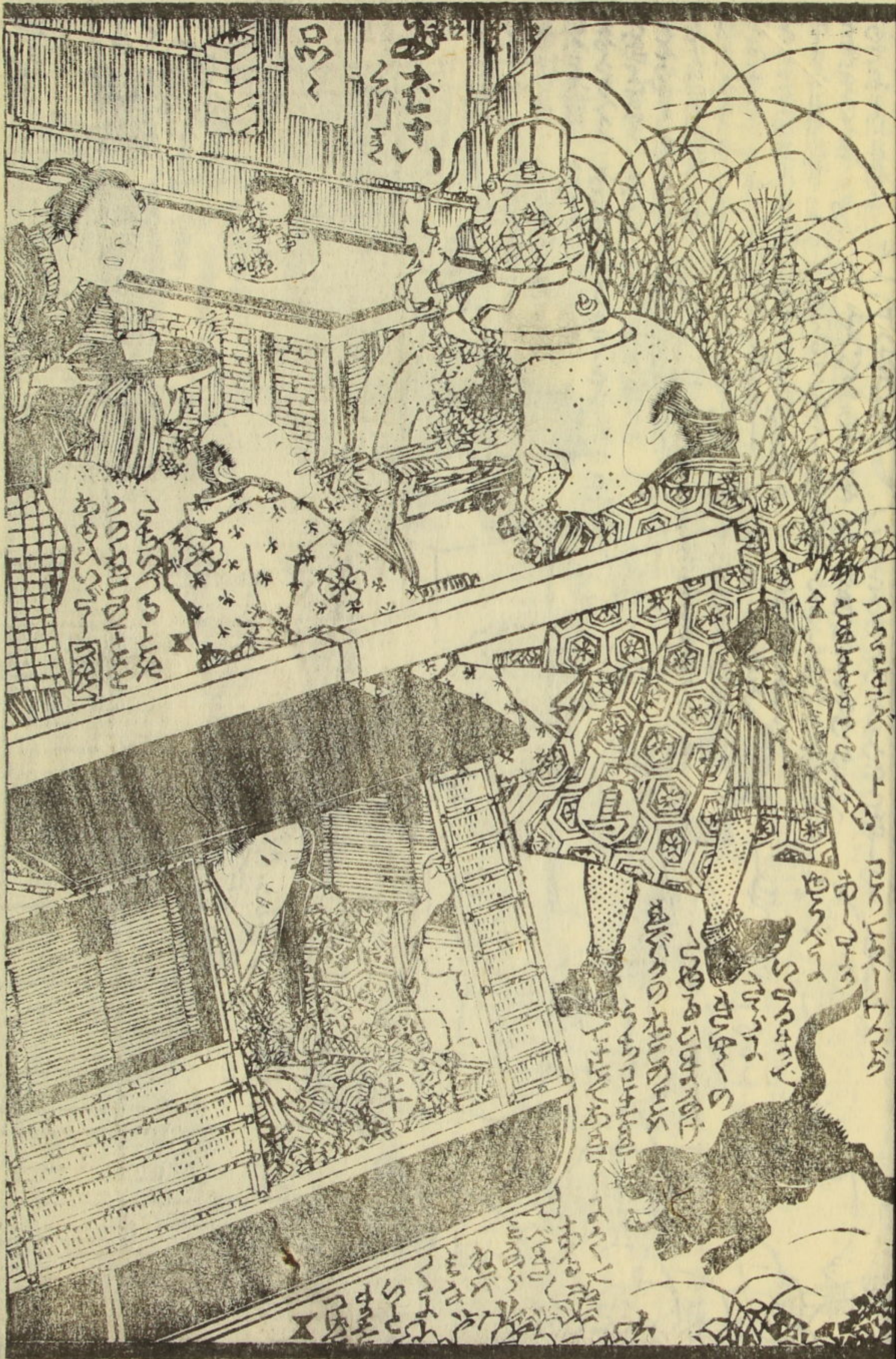
重七變化
十海下糖多
秀賀化梅線
梅國交画圖



食和畫板



Vertical text in the upper left corner of the illustration, likely a title or descriptive text in a historical script.



30
花
鳥
図
巻

花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る



花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

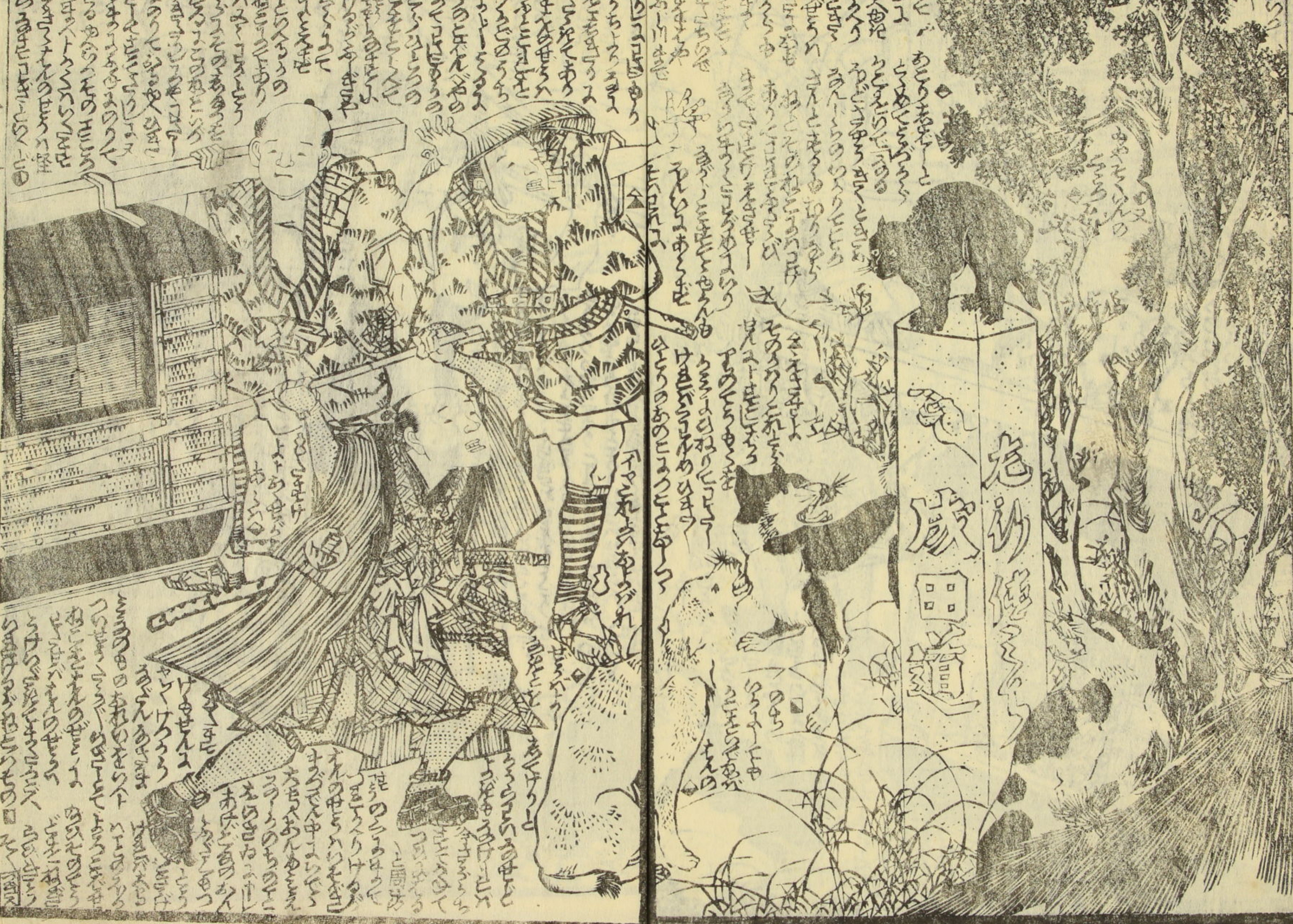
花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

花
鳥
図
巻
の
中
に
は
花
鳥
の
図
が
描
か
れ
て
い
る

Handwritten text at the top of the page, including the page number '11' and the title '七代目' (7th Generation).



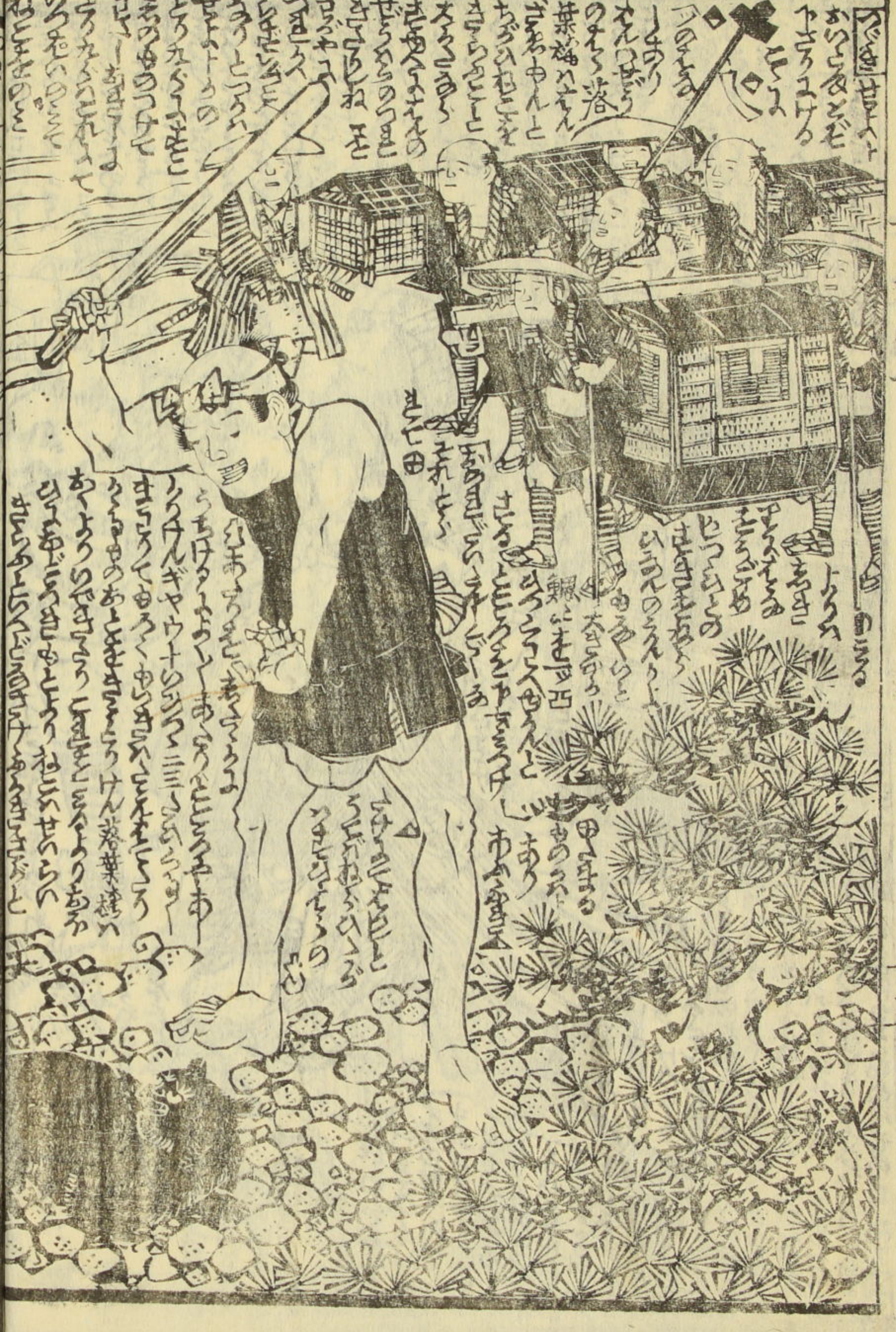
Large vertical characters in the center of the illustration: 七代目 (7th Generation) and 成田道 (Narita Michi).

Handwritten text at the bottom of the page, including the page number '11' and the title '七代目' (7th Generation).



Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect, located at the top of the page above the boat illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect, located at the bottom of the page below the boat illustration.



Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect, located at the top of the page above the man with the staff illustration.

Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect, located in the middle of the page between the man with the staff and the pine trees.

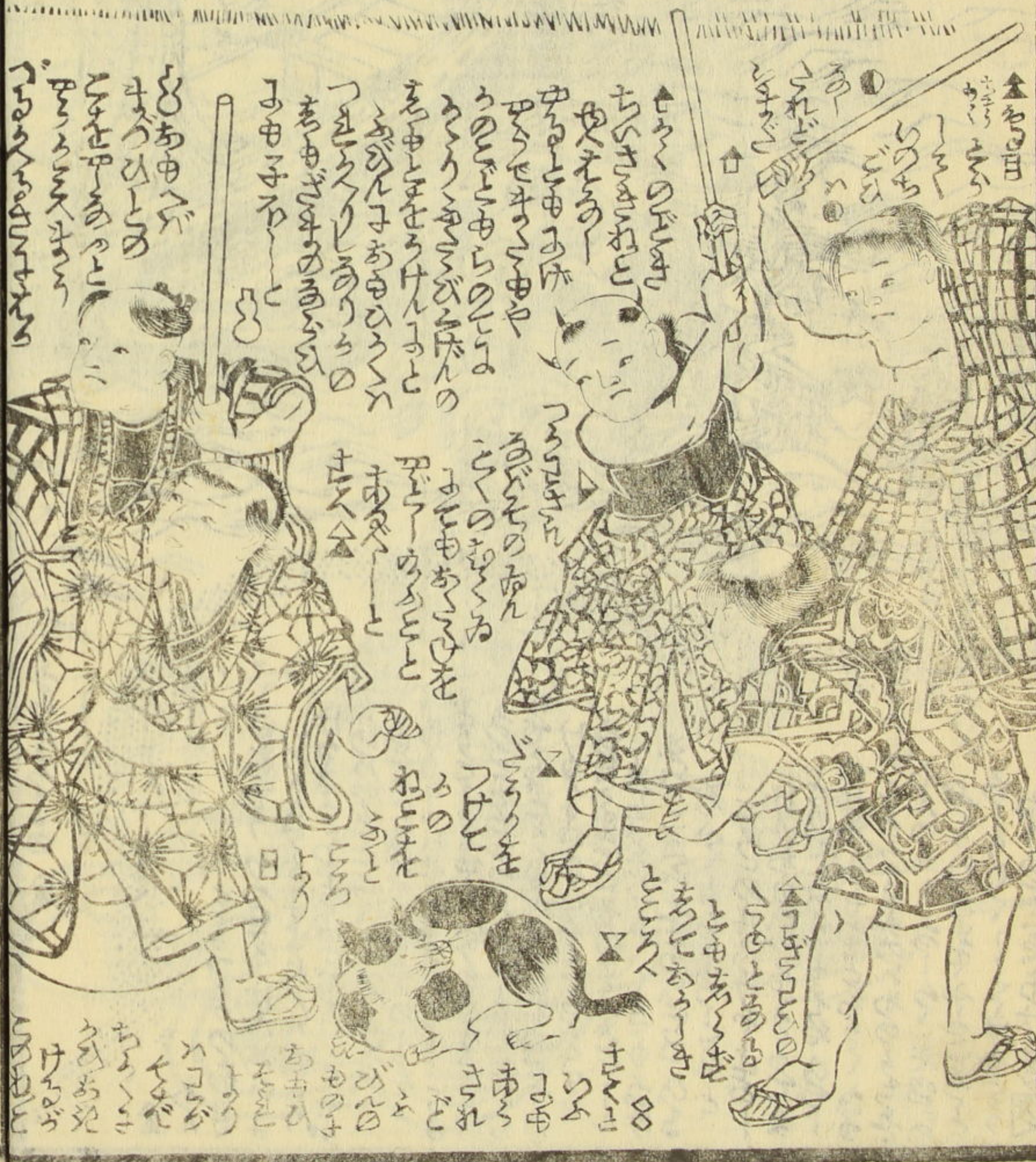
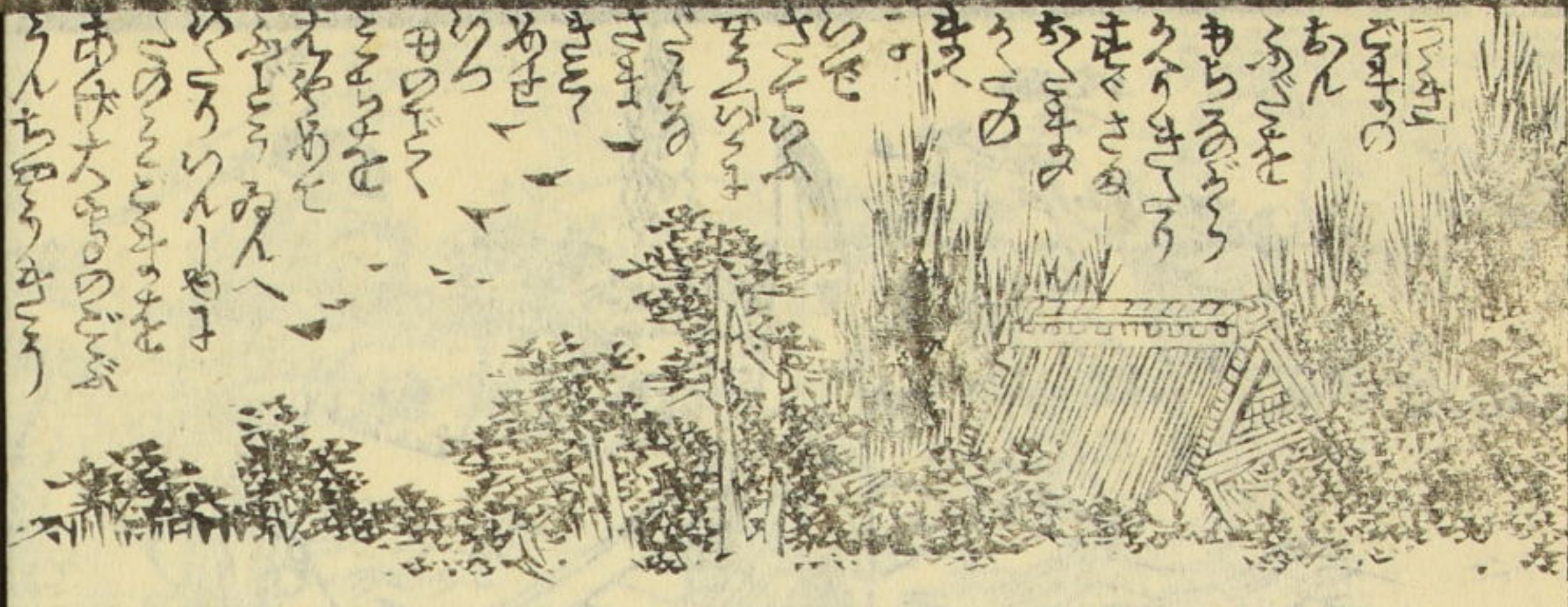
Handwritten text in a cursive script, likely a Japanese dialect, located at the bottom of the page below the pine trees.



七葉作十

十一

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百



一七

七十九

七十九

秀賀作國貞画

○せんご
せんけのき
ごのめ
ごけんご
さきまご
のり



板元
金松堂

武田膏
大貝百丸
小貝二十丸
中貝十八丸

若人形町
飯島春三郎謹製

神
一
角
丸

調合所
上総國
東金町
大野傳兵衛

父
草地本問屋金松堂

横山町三丁目
辻岡屋文助梓

柳幕魁双帟
八編 凱長作
揃 國貞画

義經千本櫻
三編 種清綴
揃 國貞画

釜淵水姓右川
三編 又京作
揃 國芳画

道外江戸名所
大錦繪
五十 廣景画
番續

右の殊の外御評判
招別彫
摺品は念の極彩色仕立有之

